

「戦略ロードマップ」の検討体制

平成 2 9 年 3 月

「高速炉開発の方針」における記載（抜粋）

- 「戦略ワーキンググループ」の下で、今後の「ロードマップ」を策定していくに当たり、「国際協力」、「常陽」、「もんじゅ」、「国内施設」の各プロジェクトを担う各チーム及びこれらを束ねる「統括チーム」を組成する。
- 「国際協力チーム」は、当面は日仏ASTRID協力を推進するための戦略を立案し、対外交渉や協力内容の連絡調整・国内実施等を担うものとし、経済産業省を中心に、文部科学省、中核メーカー、原子力機構、電気事業者の実務レベルで構成する。（なお、フランス以外の国との交渉等で必要となる場合には、適宜、チームの下部組織体を組成する。）
- 「常陽チーム」は、当面は、国際協力での活用を含めた運用計画を検討するものとし、原子力機構を中心に、文部科学省、経済産業省、中核メーカー等の実務レベルで構成する。
- 「もんじゅチーム」は、「もんじゅ」で獲得してきた知見を改めて技術的見地から整理するとともに、今後のナトリウムの取扱い技術に関する研究開発や、ナトリウム取扱いに関する人材育成の実施計画を検討するものとし、原子力機構を中心に、文部科学省、経済産業省、中核メーカー、電気事業者等の実務レベルで構成する。
- 「国内施設チーム」は、限られた資金の中で、最適な組合せで施設をどのようなタイミングで活用していくか、運用計画を策定・調整するものとして、原子力機構を中心に、文部科学省、経済産業省、中核メーカー等の実務レベルで構成する。
- 「統括チーム」は、上記のチームの代表を含め、経済産業省を中心に、文部科学省、中核メーカー、電気事業者、原子力機構において、最前線で高速炉開発に携わる実務の責任者、専門家、研究者を結集し、これが核となって国内外の研究開発機関をネットワーク化するとともに、効果的に知見を集約しながら、最適な戦略を構築することを目指す。

「戦略ロードマップ」の検討体制

- ロードマップの策定作業の中核を担う「統括チーム」について下記のとおり定める。
- 各プロジェクトを担う各チームの役割については、検討の進捗に応じて今後具体化していく。

会議体

高速炉開発会議

(議長：経済産業大臣)

・国内の高速炉開発の司令塔機能を担う

戦略ワーキンググループ

・ロードマップの策定に向けて、実務レベルで技術的な検討を行う

統括チーム

- ・戦略ワーキンググループと同様、高速炉開発会議のメンバーの所属する組織の実務担当者等で構成する
- ・高速炉特有の技術課題の解決のために必要となる研究開発の進め方等を検討し、ロードマップの素案を示す
- ・実効的なロードマップを策定するため、現在進められている研究開発（国際協力及び国内プロジェクト）についても俯瞰的に把握し、全体統括を図る

実務部隊

国際協力チーム

常陽チーム

もんじゅチーム

国内施設チーム

統括チームの構成について

- 統括チームのメンバーは以下のとおり。

(平成29年3月30日時点)

| | |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 経済産業省 | 浦上 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力政策課長 (★チーム長) 覚道 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力立地・核燃料サイクル産業課長 中原 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力政策課 原子力国際協力推進室長 |
| 文部科学省 | 西條 研究開発局 原子力課長 奥野 研究開発局 研究開発戦略官 (新型炉・原子力人材育成担当) 次田 「もんじゅ」の在り方検討室企画官 |
| 中核メーカー | 三菱重工：荒木 原子力部担当部長 三菱重工：碓井 FBR推進室長 三菱FBRシステムズ：伊藤 取締役社長 三菱FBRシステムズ：國嶋 取締役 |
| 電気事業者 | 電事連：尾野 原子力部長 電事連：浅原 原子力部副部長 日本原電：小竹 執行役員開発計画室担任 |
| 原子力機構 | 中村 企画調整室長 上出 次世代高速炉サイクル研究開発センター長 佐賀山 理事長シニアアシスタント |

※上記に加え、「国際協力」、「常陽」、「もんじゅ」、「国内施設」の各チームの代表が必要に応じて参画。